2024 年度 初芝立命館中学校·高等学校 学校評価

1 教育目標

【Be Unique】

- ○大きく変化する社会状況や価値観、テクノロジーの進化に対応し、未来を生きる生徒に必要な力を育む
- ○これからの時代に必要なスキルや多様性の許容、そして、進学後や社会人になっても学び続けることのできる生徒の育成
- ○「なりたい自分」を作り、「やりたいこと」を見つけ、「教えられなくても学べるようになるため」に経験を軸に置いた教育

2 中期的目標

- 1 新しい教育の実践段階へ サイエンスとグローバル
- 2 学則定員変更に向けた準備
- 3 「開かれた学校」に向けた教育活動の展開 企業・地域・他校との連携
- 4 進学実績とキャリア形成
- 5 生徒募集
- 6 施設設備の整備

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見		
1 授業評価アンケート 概ね良い結果であり、2回目でも高評価が維持できている。特に中学75ポイントの基準を大多数の教員が超えている。中学 総合評価 第1回 85.9 (100%) 第2回 84.4 (94.0%)高校 総合評価 第1回 81.1(80.0%) 第2回 81.6 (86.0%)※()內は75ポイント到達率 2 保護者アンケート多くの項目で高評価を得ており、高評価の項目が昨年度の8項目から目に増えた。本校の新しい挑戦や教育方針が理解されていると考える。わが子を入学させて良かった 91.75教職員は、生徒のことをよく考えて指導している 90.25教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をして77.0教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている 82.8生徒同士がお互いを認め合い、豊かな心の育成ができている 84.35学校生活などの諸規定は、納得できるものになっている 87.65挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている 91.25 進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がなされている 79.05 将来を考える、進路意識を高める指導がされている 78.05 施設・設備が整っている 76.25	1. 委員会の体制 立命館大学理工学部長、学校法人立命館常務理事、保護者会会長、地域有識者、校長、教頭、事務長 委員会の実施日 2025年5月1日(木) 2 自己評価の結果に対する評価 ①保護者アンケートの質問項目として「本校を知り合いに薦めます か。」という項目を増やすことで、保護者の評価をより的確に把握できるのではないか。②地域と学校、行政がともによりよい社会づくりというテーマで協働する場を探してみたい。より地域とのつながりが強くなり、学校の存在意義が生かされ、生徒の成長も期待できる。③5年間で大きく学校が変化していると感じている。その変化に保護者として期待をしている。④時代の変化が著しく、AIの台頭が世の中を大きく変えるといわれているが、そのような社会情勢をくみとった教育活動を展開していることを高く評価している。		
部活動や生徒活動が活発に行われている 88.19 学校行事は楽しく充実している 89.49			
ホームページにより学校生活の様子がよくわかる 79.89			

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的	今年度の	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての
目標	重点目標				改善策
1	(1) サイエンス 教育の重点化と	 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の実践 	1 実施状況 2 STEAMS 教	1 計画通りに実施。 3/10 SSH 成果発表会を実施。	1 SSH 推進機構を中心 に運営。これまで進
新	実践	・生徒の意識調査の継続的実施と分析	育が実施	2 高校 1 年では STEAMS の探究授業を学	めてきた教育内容を
ľ		・大学や研究所等との連携・サイエン	できたか	年全体で取り組んだ。	実践し実績を上げ
\ \ \		スラボ整備・生徒のコンテストや大会	3 各プログ	3 ①ICRF、JSSF に参加。どちらのプロ	る。
教 音		への参加(JSSF、国際共同研究、科学	ラムに参	グラムにも生徒は積極的に、熱心に	2 理数探究基礎の実
\mathcal{O}		の甲子園、観光甲子園など)	加できた	取り組み成果を上げた。②国際共同	施、科学英語の実
教育の実践段階		2 STEAMS 教育	カゝ	研究では、高校1年生8名が西オース	施、テキスト作成に
 		・Science Technology Artを重視した		トラリアパースにて現地校生徒とと	向けて準備する。
階		教育		もに課題研究に熱心に取り組み、現	
サ		3 ICRF, JSSF,パース国際共同研究		地校との交流を深めた。	
イ	(2)US コース実	1 国際系のコース「US コース」の設置・	1 教育内容		1 高い英語力の獲得と
エ	践	イマージョン教育、英語授業	と入学者数	①実技教科でのイマージョン授業	グローバルコンピテ
ン		・APU 近藤教授の Global Citizenship		②Global Citizenship Program実施	ンスの育成に務め
スとグ		Program	を締結でき	③ブータン、オンライン交流実施	る。高校教育課程の
グ		・GRAS との連携による US Quest	たか	④中1終了時、全員3級到達	具体化。
口,		・エグゼクティブアドバイザーに国際			2 国際ピア探究(海外
バ		教養大学のモンテ・カセム学長、APU		2 2024年3月締結	の大学との国際共同
ル		の米山裕学長		2025 年度国際ピア探究に向け準備	研究)の学校と内容
		2 西オーストラリア州との教育提携締結			の選定。
2	(1) 本校独自の	1 総合的な探究の授業運営と特色化	1. 実施でき		1.6 カ年を通したプロ
学	教育理念の	2 教育講演会の実施	たか	できた。特に高1ではGo Stem、	グラムの体系化。
則	打ち出し、6	3 研修旅行、宿泊研修の実施	2. 実施でき	Taste Stem と題し、SSH 事業に積極	2. 次年度も年 2 回実施
定	か年プログ		たか	的に取り組んだ。	予定。
りの	ラムの構築		3. 実施でき	2 第1回「世界平和にむけて」	3. 探究テーマに結びつ
変			たか	第2回「未来を生きる」実施	くテーマ設定。探究の実
学則定員の変更に				3 ①中学:オークランド(NZ)パース (AUS)	践により、総合型選抜で
7 C				高校:インド、タスマニア、パラ	の大学合格者数を伸ばす
け				オ、ベトナム・カンボジア、対馬韓	
むけた準				国、東北・北海道8方面で実施 ②中学:秋季研修(滋賀・九州方面)	
備	(2) タコーフの	1. 立命館コース	 1 実施でき	1. ①7 月教員対象理工学部研修実施、理	1 ①CCU 車 ※ 心 油 堆
1/114	(2) 谷コースの	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 美麗でさ		
	元 奶 的 • 符	少生ボ教目の推進②グローバル教目の推進	15/13	系クラスにて atama+数学理科受講 理系	し、学び続けること

	5 U > 40 4			High - Wall and a last	
	色的な教育 内容の実現 (1) 広域連携	2. アドバンスト・スーペリアコース ①総合型選抜入試への取り組み ②自主学 習システムの構築 1. すさみ町との連携	2 実施でき たか 1 連携でき	② ネイティブ教員による SDG's /Presentation の授業実施、国際交流@ APU への参加など実施できた 2. ①教員対象の総合型選抜の研修実施 ②自主学習の時間を設定し、スタディサプリを活用した。校内に LSC (ラーニングサポートセンター)を設置し、放課後の自主学習の場を作った。	の重要性を植え付けること②理系進学者を増やす。 2 模試データにより個別の変化を各会議で共有し、多方面か講座を実施する。 1 探究活動や言語活動
3 「開かれた学校」に向けた教育活動	(1) /公戏注1万	2. 西オーストラリア州との連携	たか 2 連携で たか	すさみ町での民泊・キャンプ活動、ならびに町の暮らし体験(ローカルツーリズム)を実施。生徒は新たな仲間と協働しながら地域住民との交流を深め、地域理解と協働性を育む機会となった。 2 西オーストラリア州教育機関との包括協定を締結し、学校視察や SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 国際共同研究に向けた基盤づくりを実施。今後の継続的な国際連携活動の足がかりとなった。	との接続
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(2) 企業等との連携	・高校 堺 Well-being Project Go STEM, Taste STEM	1 連携できた か 2 内容の充実度	大学女性研究者 5 名との懇談会などを実 施	2. SSH と US コースでの活 動を実践する。
4 進学実績とキ	(1) 国公立大学 合格実績の 向上	京阪神5名、国公立50名を目標 ・探究での実践を体系化し、総合型選抜で の合格者を伸ばす	合格者数	京阪神0名、国公立21名。総合型選抜で 課題あり	上位層を学年全体で指導 する体制と分析。
	(2) 提携校推薦	 理系進学者増に向けての取り組み・ラボステイ・サイエンスラボ講座・理系講演など APU 進学者増に向けての取り組み・立命館 DAY での APU 講演・国際交流@APU など 	1 進学者数 2 進学者数	1 理系進学者 41 名。理工学部への進学者は 12 名、志願者増とはならなかった。2 2名。昨年度(10名)から大幅減となった。	工学部を教員が知る 取り組み。
ヤリア形成	(3) 海外大学への進学	5名を目標 ・保護者向け説明会の実施	進学者数	進学者は 0 名となったが、既卒生がコミュニケーションカレッジを経由して、カルフォルニア大学バークレー校へ進学。	学年の進路説明会などに 海外大学進学を組み込む など実施形態の改善。
JIX.	(4) 私立大学への合格実績の向上	・総合型選抜での合格者増を目指す	進学者数	早稲田3名。中央1名。関関同立32名。 岩手医科大学、川崎医科大学 2名	受験への指導体制を再検討。
	(1) 学則定員の 変更を踏ま えた入試 報活動の強 化		1 重点地域 からの受験者数 2 登録者数 3 実施回数		 北摂、南河内、奈良 など受験者の少ない 地域を中心に広報活 動を重点化。 発信数を増やし広報 に繋げる 重点地域での実施
5 生徒募集	(2) US コースの 入試広報	US オープンデイの実施	実施的型、参 加者数	1. 参加人数 第1回 52組 (80名) 第2回 41組 (72名) 2. 参加者は授業内容、US コースの方針 などに共感し、好評であった。	授業公開や説明会など、 より具体的な教育内容を
来	(3) 中学入試	 受験者数 1200 名を目指す 入学者数 180 名を目指す (うち US で 30 名の入学者確保) 	1 受験者数 2 入学者数	1 1474名が受験し、目標を達成した。 2 260名が入学し、目標を達成した。 (USコース19名が入学、目標達成せず)	1 1500名 2 180名(US30名)
	(4) 高校入試	 併願受験者数 500 名を目指す 専願(内部を含む) 360 名を目指す 入学者数 400 名を目指す 	 受験者数 入学者数 入学者数 	1 343 名。目標達成せず 2 381 名。目標達成 3 406 名。目標達成。	1 500名 2 360名 3 400名
	(1) 教室設備・ 改修	1 2025 年度に向けた教室の検討 2 理数教育の充実に向けた施設の検討	1 改修完了 したか 2 改修完了 したか	1 3号館に新教室を増設、改修完了 2 理科室、特別教室の増設は引き続き 検討、備品として、各種機器購入	 探究や SSH に欠かせない特別教室の移設と設置。 備品の充実 体育館冷房施設4特別教室の増設(音楽室/美術室/技術室等)
6 施設設備の整備	(2)情報発信・ ICT の改修・ 充実	1 サイエンスラボ機器の充実 2 教員用貸与 PC	 新規構築 でおったのでである。 はたかのでは、 は、 <	貸与された。また、SSH の一環で 3D プリンター、各種機器を購入。 2. 全ての専任・常勤の教員に Surface を	1機器の充実ともに施設の充実ともに施設の表別と選用を選用を選用を選用を選用を選用を選出を選用を基準を対象を対象を対象を対象を対して、またのでは、またので